

[長野県] 信濃町立信濃小中学校（義務教育学校）

1. 学校（区）概要

- 教育目標：【自主】自ら求めて学ぶ児童生徒 【友愛】命と仲間を大切にする児童生徒
【克己】最後までやり抜く児童生徒 【躍進】自分自身をみつめ豊かに生きる児童生徒
- 所在地：長野県上水内郡信濃町大字古間490
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）



学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	43	37	40	54	43	56	12	285	53	54	67	15	189	474
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	2	2	3	3	10	24

2. 導入経緯

【検討開始のきっかけ】

児童生徒数の減少と施設の老朽化

【具体的な経緯】

- 平成16年度 信濃町立小学校適正配置検討委員会設置
- 平成19年度 教育環境検討委員会設置
- 平成24年度 5つの小学校と1つの中学校を統廃合し信濃小中学校開校
- 平成28年度 義務教育学校に移行

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 基本理念「信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成」～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～
- 初等部では豊かな自然の中で、体験活動を通して、基本的な学習習慣や人間関係力を培う。
- 高等部前期では教科担任制で専門的な学びを通して、教科の本質に触れながら主体的な追求力を培う。
- 高等部後期では自らの生き方を見つめ、夢の実現に向けて進路を切り拓く力を培う。

教職員体制

- 校長：1名 副校長：1名 教頭：1名
- 教職員：66名

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：なし
- 区切り：4－5制
- 学校行事等：初等部修了式（4学年）、前期課程修了式（6学年）、立志式（8学年）、秋桜祭

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：第5学年から、算数、理科、音楽、図工、家庭科、体育において実施
令和3年度から第3学年からの音楽、図工、体育においても実施

児童生徒の異学年交流の工夫

- 運動会、文化祭の1～9年生合同実施

市町村教育委員会等による支援

- 小中一貫教育 町費講師の配置、学習支援員、リソース等指導員の配置

その他

- 学校運営協議会の設置
- しなの学校応援団（地域住民の方が特技などで外部講師となり学校に協力）

テーマ：小中一貫した教育課程「ふるさと学習」

ふるさと学習のねらいと具体的な取り組み

なぜ小中一貫の教育課程で「ふるさと学習」を位置づけたか

信濃小中学校は、5つの小学校と1つの中学校の統廃合により、町唯一の学校として新たに開校した。小中一貫9年間で取り組む信濃町を学習材とした「ふるさと学習」を通して、信濃町の児童生徒としてのアイデンティティを育み、生まれ育った故郷への感謝と誇りを持ち、主体的に自らの地域を考えることができる、次代を担う人材を育成する。

また、講師となる地域住民と積極的に関わりを持ち、地域に開かれた学校づくりを進めることで、地域との協働関係を強化し、地域で子どもを育み、支援する体制をつくっている。



学校教育目標の実現

信濃町に誇りを持ち、次代を担う人材の育成
～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～

具体的に「ふるさと学習」で何をしているか

- 江戸時代に活躍した俳人小林一茶の生誕地であることから、幼児期から「一茶かるた」に親しみ、この具体的体験を、学校教育と結び付けるために、信濃小中学校入学後は、一茶記念館の学芸員の協力を得ながら、遊びの中で親しんできた一茶の俳句を基礎にして、2年生と7年生の国語で俳句について学んでいる。
- 初等部（1～4年）では、生活科、総合的な学習の時間の中で、地域住民の協力を得ながら地域巡りや野尻湖クリーンラリー、米作りなどをおこない、自分の周りに学べきものがたくさんあることを認識させることで、身の回りへの知的好奇心を高めている。
- 高等部（5～9年）では、自ら問いを設定し、試行錯誤を繰り返しながら、友だちや地域の人々と対話し、一人一人が自ら答えを導いていく課題解決学習を特に大切にしている。例として、令和3年度の7年生は、信濃町のおいしい水に興味をもち、町の水道係を訪ねた。そこで冬期にかなりの漏水があることを知り、町の水道係と連携しながら、水道のキャラクターをつかって住民に告知することで、町の漏水問題を解決しようと学習を進めた。9年生になるとふるさと学習のまとめとして、研究成果を町へ提言するなど、学校内にとどまらない、広がりや深みのある学習をおこなっている。



これまでの成果と課題、今後の取組

- 信濃町の恵まれた自然や歴史文化を題材化し、小中一貫教育を通じた新たな学びを創造できている。
- ふるさと学習を通して、信濃町を好きな子どもが増えている。また、知的好奇心の高まりや学び合いにより自分の考えの広がりがみられる。
- 過去の実践をアーカイブ化し、また総合的な学習の時間（ふるさと学習）の目標（願う姿）について、教職員間で共通理解を図り、学校全体の横断的・系統的な取り組みとして深化させたい。
- 講師となる地域の方（しなの学校応援団）と校内コーディネーターを中心とした地域連携の仕組みを構築する。
- 校外学習が計画的に実施できるよう、日課と学校行事などの見直しを図る。

ふるさと学習について 中学生・高校生（卒業生）への意識アンケート（平成30年度実施）

凡例	（%）					
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	
気になることを自他から積極的に調べようになった	小中学生(n=126)	71.1	28.6	41.3	14.3	8.7
	高校生(n=67)	60.0	37.3	29.9	14.9	11.9
これまでと違う、もの見方ができるようになった	小中学生(n=126)	11.9	40.5	28.6	6.3	12.7
	高校生(n=67)	16.4	35.8	25.4	10.4	11.9
友達と話し合ったり、一緒に作業をすることで、自分の考えを広げることができるようになった	小中学生(n=126)	22.2	37.3	23.8	7.1	9.5
	高校生(n=66)	21.2	37.9	16.7	12.1	12.1